

市場ニーズに柔軟に対応し 「見える」に新たな価値を創出

シードは、使い捨てレンズの利便性やサークル・カラーレンズのファッション性等、市場ニーズに柔軟に対応し、コンタクトレンズの可能性を追求してきました。これからも「見える」の課題に向き合い、新たな価値創造に挑み続けます。

外部環境の変化

- 少子高齢化の進展
- 人口減少の加速
近視人口の増加
- 世界経済の不透明感
- デジタル革新の加速
- 就業意識の変化
(ワークライフバランスの進展)
- 気候変動問題の本格化
- 生物多様性保全の重要性の高まり



資本を投入し、事業を回す



シードの強み

より多くの「見える」をサポートする

多様な商品・事業展開

高品質な多品種
少量生産を実現する

Japan Quality

未来の「見える」に
挑戦し続ける
積極的な
研究開発

中期経営計画

- 市場競争力の強化・収益力の強化
- 信頼されるモノづくり
- SDGsの推進
- 安定した株主還元

価値創造基盤

- 品質
- 人材
- 環境
- ガバナンス

創出した価値(資産)を投資し、資本を強化する



地域社会



取引先



お客さま



従業員



株主・投資家



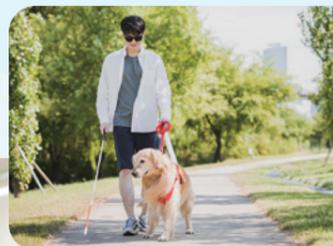
政府・自治体

社会への創出価値

- 世界中の人々のQOL向上
- 視力矯正医療への貢献
- 高付加価値商品の提供
- 安定的なサプライチェーン実現

ビジョン 「見える」に 新たな価値を

- 高品質な商品・サービス提供
- ダイバーシティ&インクルージョンの推進
- カーボンニュートラルの推進
- サークュラーエコノミーの実現



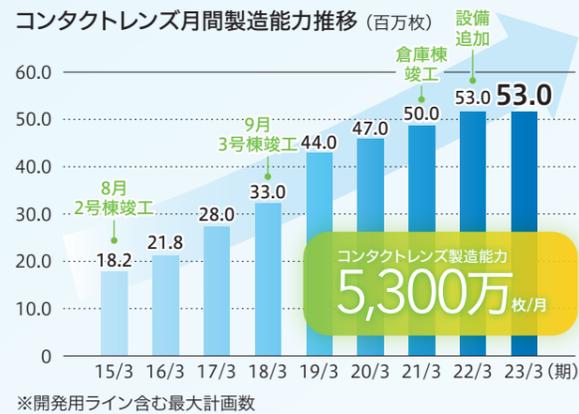


多様なニーズにお応えする製品を効率よく生産する体制を整備

より高品質な製品を、より速く確実にお客さまにお届けしていくために、生産力の強化と品質の管理を重視し、効率的で安定した生産活動を継続します。

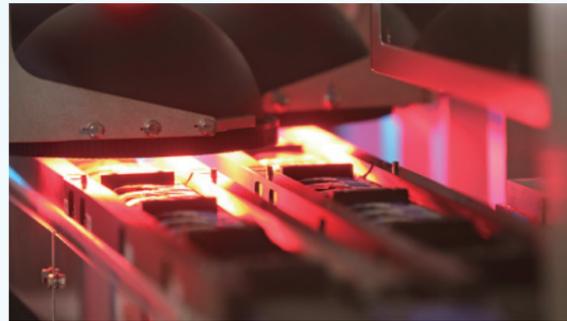
大量生産体制だけではなく、多品種少量生産も実現

シードの生産拠点である鴻巣研究所では、主力である1日使い捨てコンタクトレンズの安定生産と、個別の海外向け仕様の製品等の小ロットの品種を効率的に生産する体制を整備しています。製造部門をコントロールしている生産管理グループでは、生産計画に基づく生産数を実現しながら製造原価の低減を図り、多品種少量生産ラインも常軌化することを目標に掲げています。



高品質製品の生産における安定性と効率性を両立

高品質製品の生産過程における安定性と効率性を確保するために、検査システムのオートメーション化を進めています。これにより、検査結果のばらつきを抑えることが可能になっています。加えて、トレーサビリティの体制を整備し、いつ、どこで、誰によって作られた製品であるかを追跡・把握する仕組みを設け、万が一問題が発生した場合には、その原因を究明できるようにしており、医療機器メーカーとしての品質を厳格に守っています。



検査精度向上に貢献する自動化検査システム

精緻な生産計画、出荷計画を達成するために業務改善を進め、多品種少量生産を実現します。

生産管理グループでは、安定したものづくりを行っていくうえで、需要予測と工程管理が欠かせない活動のひとつです。そのため、いかに時間を掛けずに正確な作業ができるのかを見極めることが最優先課題です。属人的に行っている作業や無駄を精査し、システム化の推進に努め、多品種少量生産体制の効率化を目指しています。また、一人ひとりがものづくりの現場をコントロールしているというプライドを持ち、スパイラルアップできるような仕組みづくりを整備して、当社の生産力の増強に寄与していきます。

生産管理部 生産管理グループ グループ長 T.K



積極的で戦略的な製品開発で新たなイノベーションを生む

未来の事業の幅を広げるための探索的研究を基盤としながら、将来のニーズを捉えた戦略的な製品開発を進めることで、高付加価値製品と新領域の製品を創出します。

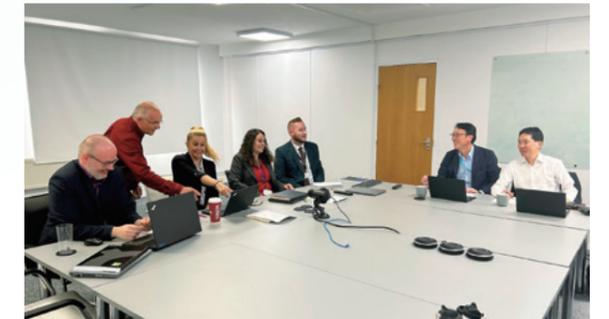
研究開発の基本的な考え方・戦略

研究開発本部では、シリコンハイドロゲルレンズやオルソケラトロジーレンズならびに薬物徐放性レンズ等の高付加価値製品の実用化を推進しています。医療機器であるコンタクトレンズの開発には10~15年を要するため、製品開発は10年先のニーズを予測しながら、戦略的に進めていく必要があります。「近視進行抑制」「スマートコンタクトレンズ」「医薬品と医療機器の融合」をテーマとして掲げ、グループ間で保有している技術を集結するだけでなく、他企業、大学等とも連携して製品開発を行っています。



大学や研究機関とのオープンイノベーション

シードは、医療用高分子材料、医療機器としての生物学的、化学的分析評価等の分野で、広く知見を有しています。昨今、コンタクトレンズに限らず多くの業種で、異分野の技術との融合による様々な新しい製品が開発されており、生活の質の向上に貢献しています。このような中で当社でも、積極的に異なる研究分野に強みを持つ大学、国立研究機関、企業との共同研究体制を構築し、新しい製品開発に取り組むことで、これまでの当社にはない発想で、コンタクトレンズの未来を創生できるよう努めています。



海外グループ会社との協働による自社開発も積極的に実施

治験の立案や安全性・有効性を判断し、シードの研究開発を支えます。

私は、治験や臨床研究の計画、実施サポートを中心に、承認申請や学会報告等に使用するデータを取得するといった研究開発の最終フェーズを担当しています。治験に至るまでに多くの労力をかけた開発品を無事に製品化できるよう、治験の立案や安全性・有効性を判断し製造販売承認につなげることが役割ですので、問題なく遂行できるように、社内外の人との連携を大切に業務に取り組んでいます。現在、「近視進行抑制」「薬物徐放性レンズ」等の付加価値のあるコンタクトレンズの製品化に向けて治験を実施しており、開発を支えています。

学術部 臨床研究室 課長 H.O





ステークホルダーとの共創を通じ 世界に広がるパートナーシップを強化

お客さま、社員、株主・投資家、取引先、大学・研究機関等、すべてのステークホルダーとの信頼関係の構築を最重要項目と考え、相互利益に貢献します。

ステークホルダーとの対話

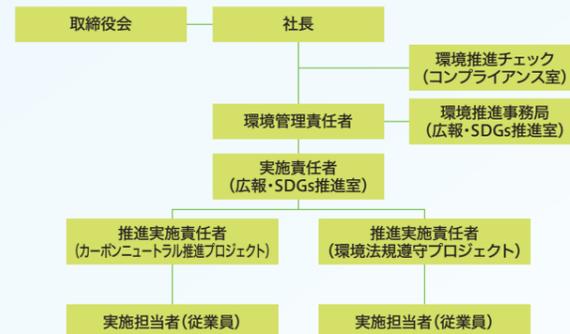
シードは地域や社会に必要とされ続けるために、事業活動を通じて価値を創造し、持続可能な社会の実現に貢献しています。社会情勢が常に変化中、社会にとって必要とされる製品を提供するためには、多様なステークホルダーと対話し共創するプロセスを企業活動に組み込んでいく必要があると考え、株主総会をはじめ、投資家向け説明会や営業訪問、地域イベントにも積極的に参加する等、対話の機会を多く設けています。



調達先への環境配慮に関する調査

環境と調和した企業活動を遂行していくことを基本とし、医療機器メーカーとして持続的な企業成長を目指しています。循環型の事業経営と環境リスクの低減を実現するため、環境マネジメントシステムを構築し、「シード環境方針」に則った運営を行っています。環境への配慮が重要であるという考えのもと、当社の主な取引先である、原料や資材等の供給メーカー、コンタクトレンズおよびコンタクトレンズケア用品メーカーに対して、環境配慮経営に関する対応状況の確認を実施しています。

環境マネジメント推進体制



ステークホルダーとの信頼を築くことで社会に必要とされる企業であり続けます。

当社は皆さまの「見える」をサポートすることで、QOL向上に寄与することを目的としており、その価値は人々がアクティブに活動できる環境や社会があってこそ最も発揮されるものであると実感しています。そのため、当社は環境経営の実現を重要視しており、独自の環境マネジメントシステムを構築し運営を開始しました。また、理念の実現のためには、社員一人ひとりが自分自身の仕事の価値を認識し取り組むことが不可欠であり、そのモチベーションがさらなる価値を生むと考えています。今後は従業員への働きかけをさらに強化し、企業価値の向上に取り組んでいきます。

コーポレートコミュニケーション部 部長 金澤 寛子



適切な資本配分を行い 安定的な利益体質を構築する

連結売上高400億円への足場を固めていくために、トップラインの拡大、キャッシュ創出力の強化、B/Sの健全化により、安定的な利益体質を構築します。

基本的な財務戦略

2024年3月期目標の連結売上高330億円の達成に向けて、当社の主力商品である「シードPureシリーズ」を中心にシリコーンハイドロゲルレンズ新商品の拡販を進めています。コスト構造を徹底的に見直し、生産効率を向上させることによりキャッシュ創出力をEBITDA50億円レベルまで引き上げます。これらの施策を通じて、利益率を改善し、投資余力を高め、直近の収益にとどまらない持続可能な成長を目指します。加えて、将来への投資であるR&Dの水準を維持することにより、キャッシュ再生産サイクルを長期にわたり実現できる利益体質を構築します。



資金調達と資本配分の考え方

シードは製造業であるため、いわゆる設備産業であり、通常の運転資金に加え、より高品質な製品をより多くの方々にお届けするための設備投資が必要となります。健全な財務体質を維持するために、安定した自己資本比率の維持を前提とした金融機関からの外部調達を前提としておりますが、当社の事業を通じた社会貢献に加え各種環境への配慮も加味したサステナブルファイナンスの比率を段階的に引き上げていくことが必要と考えています。

また、設備投資については大きく2つの方向性があります。ひとつは、現在進めている新社屋の建設です。もうひとつは、生産ラインの増加と機械のスクラップアンドビルドです。コンタクトレンズの生産枚数を500万枚相当増加できる機械への投資を行い、生産力の強化を図っていきます。投資金額は、25億円を予定しています。

研究開発については、「近視進行の抑制」を立証する治験や臨床研究への適正な投資を行っていきます。

市場環境の急激な変化にも機動的に対処できる柔軟な体制づくりに取り組みます。

企業業績はその時々外部環境の影響を大きく受けますが、企業はゴーイング・コンサーンの存在であり続けねばなりません。そのためには目先の利益だけを追い求めるのではなく、企業成長のため、中長期の投資を適切に区分して実行していくことが重要です。アゲインストの状況でも中長期の課題に向けての投資を継続していく一方、短期課題については外部環境を踏まえて機動的に戦略の見直しを実施して環境への適合を図っていくことが重要であり、結果として各ステークホルダーの期待に応えることになるものと考えます。

取締役 専務執行役員 管理本部長 兼 経理部長 杉山 哲也





自律的な成長と挑戦の場を創出し 持続的な成長につなげる

「実力・成果主義」をもとに、社員にとって働きがいのある会社づくりを目的とし、社員のやる気を引き出し、目標達成への意欲を向上させる仕組みを策定しています。

人事制度改革

2023年3月期より人事制度を改正しました。改正の狙いは、できるだけ社員の職制段階を簡素化し若手の役職昇進・登用をしやすくすること、管理監督者の社員には自身の業務上の位置づけや役割を明確にした職務記述書を手交し、管理者に期待する職務と責任の所在を明らかにするものです。また、社員それぞれの業務目標に対する成果と報酬がより連動する形となり、社員一人ひとりの果敢な取り組みに対して報いる制度といたしました。

昇進する役職	推薦要件		審査項目			決議		承認
	所属長推薦	キャリアデザインシート	役員へプレゼン	外部試験	論文	取締役会	経営会議	取締役
本部長、副本部長、部長、担当部長	●	●	●	-	-	●	-	-
副部長 エリアマネージャー グループ長、室長 次長、上席主幹	●	●	●	●	-	-	●	-
上席所長 課長、主幹 所長、所長代理、 課長代理、主査 主任	●	●	-	-	●	-	-	●
業務リーダー	●	●	-	-	-	-	-	●

昇進する役職ごとに推薦要件と審査項目、決議または承認を設定

「個」を尊重する社内横断型の「プロジェクトメンバー公募制度」

シードでは、社内の優秀人材を発掘し、社員のキャリア形成の視点から30種以上のプロジェクトを立ち上げてきましたが、2023年3月期からは、より社員の自律的なキャリア形成を支援する施策の一環として、社内プロジェクトにおいて本制度を導入しました。部署・勤続年数・役職問わず公募することで、意欲的な社員の参画が可能になり、他メンバーのモチベーションアップや一層活発なプロジェクト活動の推進につながっています。



「革新的製品開発・工程プロジェクト」打ち合わせの様子

「プロジェクトメンバー公募制度」を通じて、キャリアプランの構築につながりました。

当社の将来や自分のキャリアプランについて考える機会が欲しいという想いから、当社の成長性を高める新しいプロジェクト「革新的製品開発・工程プロジェクト」に応募しました。部署横断型のプロジェクトのため、業務上接することが少なかったメンバーとともに、熱い議論を展開し、当社が成長するための検討を重ねることで新たなアイデアを生み出しています。このプロジェクトに参加したことで、これから当社が何をすべきか、自分自身がどのように行動すべきか改めて認識でき、キャリアプランの構築や、日々の業務への意識変革につながりました。

技術部 素材技術グループ 課長 **N.O**



サステナビリティ理念に基づき 「環境経営」の実現を目指す

経営理念に基づいた事業を継続し、社会に必要とされる企業であり続けることがシードのサステナビリティ理念です。永続的に社会に必要とされる存在であるため、地球環境に配慮したコンタクトレンズメーカーとしての価値を向上させていきます。

気候変動への対応

シードは気候変動への対応として、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。2022年4月より、TCFD提言に基づくシナリオ分析とフレームワークの検討・構築を行う体制を整えました。取締役会、リスク・セキュリティ委員会監督のもと、環境マネジメントシステム(EMS)でリスクの特定・評価を行い、会社全体としてカーボンニュートラルを含めた環境課題解決に取り組んでいます。

CO₂排出量(削減目標・実績)

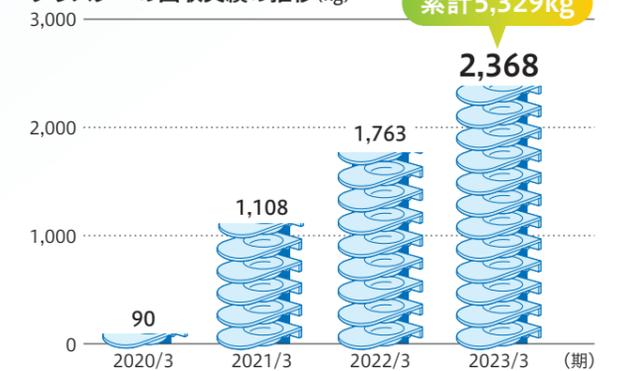


注1: 埼玉県温室効果ガス排出量取引制度の第三者検証結果より
注2: 2019年3月期は未検証のため想定値
注3: 2021年3月期は2021年4月までの排出量

サーキュラーエコノミーシステムの採用

シードは、2019年6月より、回収した使い捨てコンタクトレンズの空ケース(以下、プリスター)を、何度でも生まれ変わることができる物流パレットとして再資源化する「BLUE SEED PROJECT」を推進しています。当プロジェクトにご賛同いただいている眼科、コンタクトレンズ販売店等の協力施設にプリスター回収BOXを設置し、ユーザーからのプリスター回収や資源の活用、環境保全に関する啓発活動を行っています。2023年3月期の協力施設数は601施設の増加となりました。今後も皆さまと共にリサイクル推進できるよう努めてまいります。

プリスターの回収実績の推移(kg)



企業活動による温室効果ガスの排出量を削減し、2050年のカーボンニュートラルを目指します。

現在、サプライチェーンも含めて、当社がどの程度の温室効果ガスを排出しているのか、GHGプロトコルに沿って排出量の算定を進めています。カーボンニュートラルを達成するためには、自社のエネルギー効率を向上させる必要があり、特に排出量の多い鴻巣研究所においては、日常的な省エネ活動を推進するとともに、省エネ設備を導入することで、排出量の削減に取り組んでいます。また、生産拠点等で使用する電力の再生可能エネルギーへの切り替えについても検討を重ね、持続可能な企業活動を通じて、2050年のカーボンニュートラルを目指します。

生産管理部 設備管理グループ グループ長 **T.K**

